

地域区分(案)の考え方・地域別構想(案)の概要

1. 地域区分(案)の考え方

【改定のポイント】

5 地区＜道路や鉄道の配置状況で設定＞



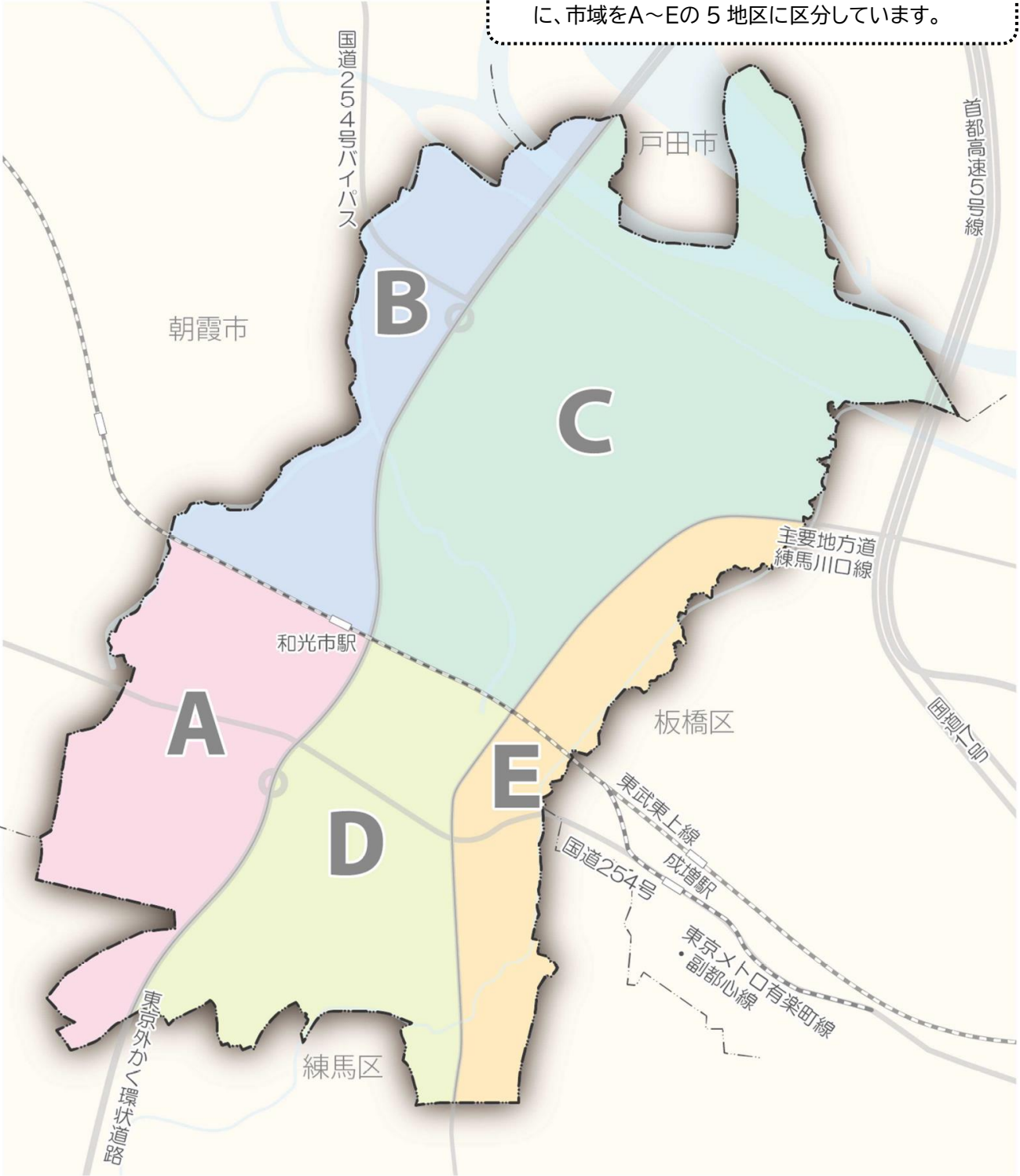
4 地域＜地域コミュニティを考慮＞

＜現行マスタープラン＞

■ 地区区分図

現行マスタープランにおける地区区分の特徴

- ・ 東京外かく環状道路や主要地方道練馬川口線、また東武東上線など、道路や鉄道の配置状況をもとに、市域をA～Eの5地区に区分しています。



＜改定マスタープラン＞

現行マスタープランの地区区分を尊重しつつ、社会情勢の変化や和光市のまちづくりの動向を踏まえるとともに、長期的な展望に立った地域区分のあり方として、主に以下の2点を考慮しました。

①小学校区を基本とした地域コミュニティを考慮

第五次和光市総合振興計画では、小学校区を基本とした地域コミュニティを重視していくことが明記されていることから、都市計画マスタープランにおいてもこの考え方を考慮します。

②日常生活圏域や交通ネットワーク、隣接自治体との関係性等を考慮

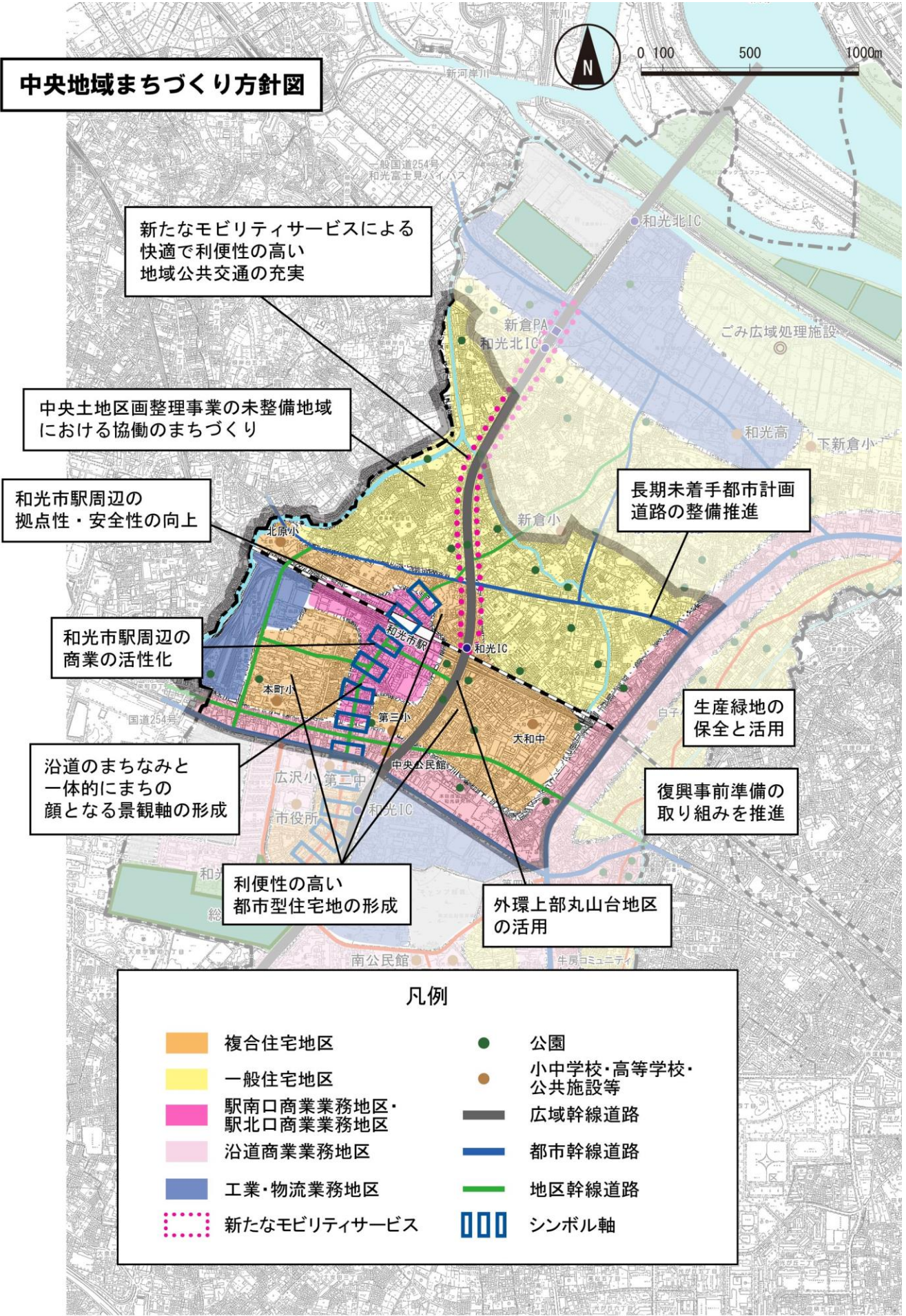
和光市では、北・中央・南の3つのエリアを日常生活圏域とし、これを基に地域福祉などの施策が展開されていること、また市内循環バスなど日常生活圏域を意識したバス路線網が形成されていること、さらに東京都練馬区などの隣接自治体や主要施設との関係性を考慮します。

➡ ①②を踏まえ、改定マスタープランにおける地域を、中央・北・南・東の4地域に設定します。

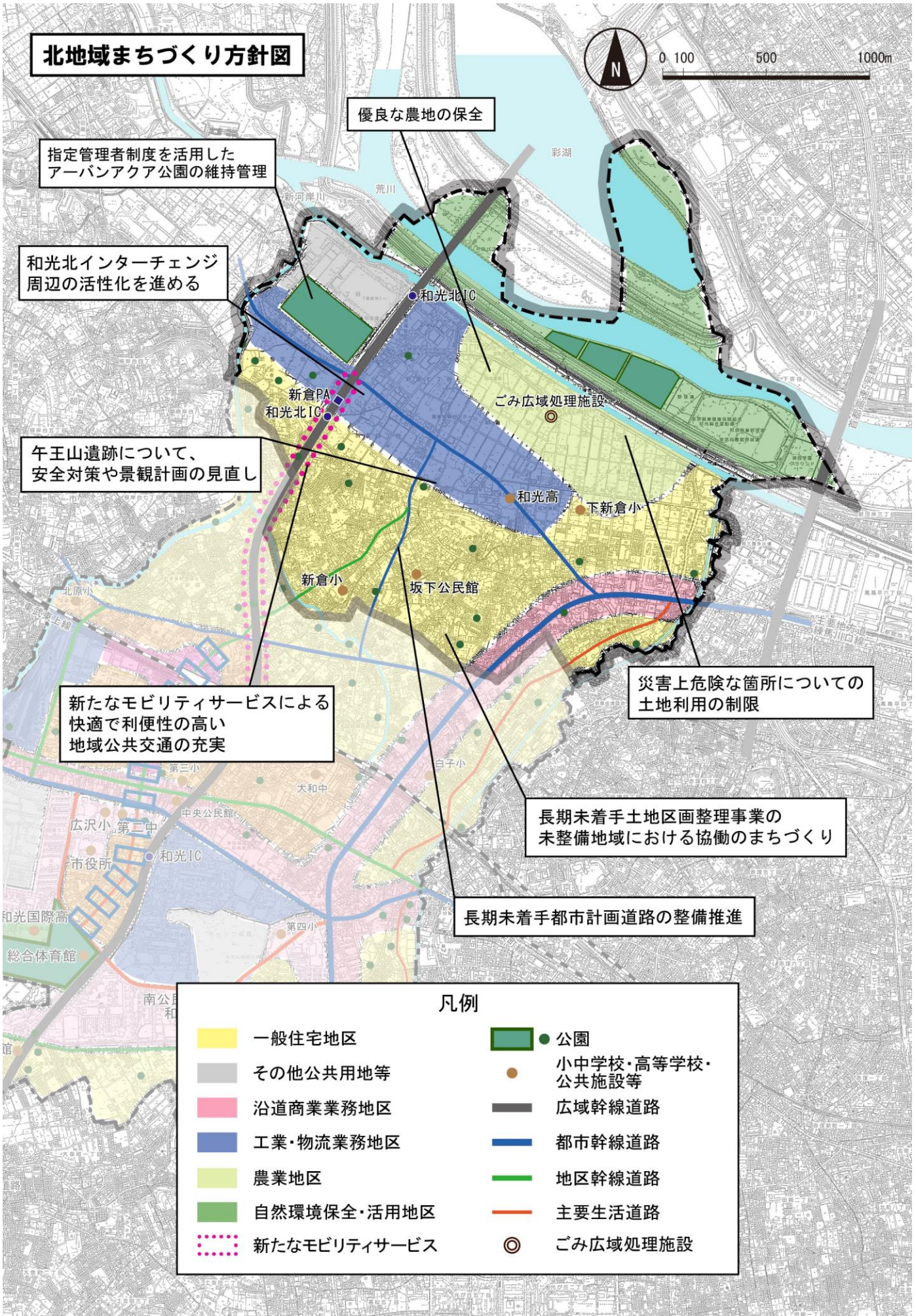


※地域名は仮称

中央地域		
現状	・和光市の中央部に位置し、市の玄関口である和光市駅や商業業務等の多様な機能が集積 ・駅北側は駅前広場や骨格的な道路が未整備 ・駅周辺の拠点性の向上、賑わい創出及び定住促進に向けた土地の有効活用がなされていない ・和光市駅北口土地区画整理事業の推進による狭小道路の改善推進、良好な住環境の形成が必要 ・和光市駅南側は都市的土地利用と比較的大規模な工場等が分布している ・外環上部丸山台地区が低未利用となっている ・地域における将来人口は、市全体を上回る伸び率で増加することが予測されている ・生産緑地が多く分布しており、有効活用が必要 ・市民アンケート調査結果では、住み続けたい意向が最も高い地域	
	人口（人） 中央地域 50,000 45,000 40,000 35,000 30,000 25,000 20,000 1.000 1.122 1.238 1.288 1.000 1.062 1.116 1.135 33,472 37,548 41,446 43,100 2020 2030 2040 2045 中央地域人口 中央地域伸び率 市全域伸び率 伸び率 年	
課題	①和光市駅北口周辺における都市基盤整備と土地の有効利用 ②都市計画道路の未整備区間における狭隘道路の解消や坂道の交通対策 ③移動の自由を確保するための公共交通機能の充実 ④外環上部丸山台地区の立体道路制度の適用 ⑤担い手不足を考慮した生産緑地の適切な管理 ⑥地震・台風等の大規模災害に対する事前の備えの充実 ⑦生活関連施設の維持管理 ⑧学校教育施設の建て替えが困難 ⑨和光市駅から和光樹林公園に至るシンボル軸の良好な景観形成	
	将来像	さまざまな人が集い・行き交う、活気のあるまち
特徴的なまちづくり方針	土地利用	・和光市駅周辺の商業業務地の形成と、土地の高度利用による都市型住宅の立地促進 ・長期未着手土地区画整理事業は、市民や民間企業との協働による新たなまちづくりを推進 ・立体道路制度の活用による外環上部丸山台地区の利活用を推進
	道路・交通体系	・長期未着手都市計画道路は、市民や民間企業の協力を得ながら、まちづくりと一体となった整備を推進 ・新たなモビリティサービスである自動運転サービスの段階的導入 ・地域のニーズに合った快適で利便性の高い地域公共交通の充実、シェアリングサービスの段階的普及など、各移動手段の組み合わせの最適化
	公園・緑地・環境	・新たな担い手の確保や地域活性化策の展開など、生産緑地の保全と活用 ・再生可能エネルギーの有効利用による低炭素化を推進 ・公募設置管理制度(Park-PFI)(せせらぎ公園)の活用
	地域防災	・復興事前準備の取り組みを推進と防災意識の向上
	生活環境	・地域性のある公共施設の維持管理
	地域景観形成	・シンボル軸の無電柱化などによる道路空間の修景、みどり豊かな街路空間の適正な維持管理

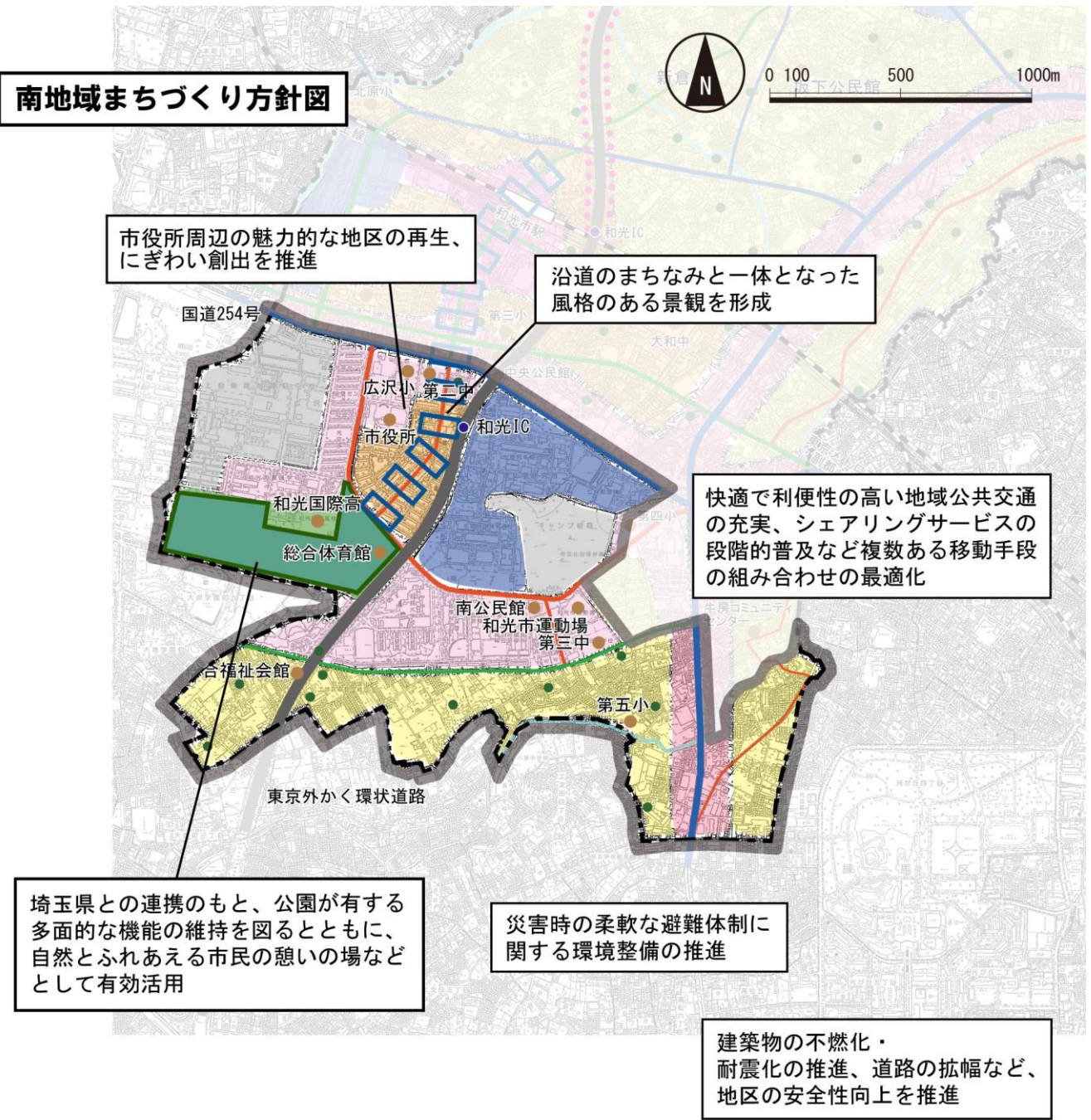


北地域																					
現 状	・ 和光市の北部に位置し、自然環境を残した住宅地、荒川及び低地部農地一帯により構成 ・ 和光北インター周辺は、交通の利便性を生かした新たな産業拠点として土地区画整理事業による都市基盤整備が進められている ・ 台地部は農地の宅地化が進む一方で、全体的に道路基盤の整備が遅れており、狭小道路や袋路状の開発が目立つ ・ 重要な歴史資源である午王山遺跡が位置する ・ 地域の約37%が自然的土地利用となっており、荒川沿いには低地部が広がっている ・ 地域における将来人口は、増加が予測されているが、市全体伸び率よりは低い ・ 市民アンケート調査結果では、災害安全性を望む要望が最も高い地域																				
	人口（人） 北地域 伸び率 <table><tr><th>年</th><th>北地域人口</th><th>北地域伸び率</th><th>市全域伸び率</th></tr><tr><td>2020</td><td>15,461</td><td>1.000</td><td>1.000</td></tr><tr><td>2030</td><td>16,163</td><td>1.045</td><td>1.062</td></tr><tr><td>2040</td><td>16,515</td><td>1.068</td><td>1.116</td></tr><tr><td>2045</td><td>16,555</td><td>1.071</td><td>1.135</td></tr></table>		年	北地域人口	北地域伸び率	市全域伸び率	2020	15,461	1.000	1.000	2030	16,163	1.045	1.062	2040	16,515	1.068	1.116	2045	16,555	1.071
年	北地域人口	北地域伸び率	市全域伸び率																		
2020	15,461	1.000	1.000																		
2030	16,163	1.045	1.062																		
2040	16,515	1.068	1.116																		
2045	16,555	1.071	1.135																		
課 題	①和光北インターチェンジ周辺の地域振興 ②都市計画道路の未整備区間における狭隘道路の解消や坂道の交通対策 ③移動の自由を確保するための公共交通機能の充実 ④公園・緑地の適切な維持管理 ⑤浸水想定区域となっている荒川・新河岸川沿川一帯の防災・減災対策 ⑥和光市清掃センターの老朽化対策 ⑦国指定史跡である午王山遺跡の安全対策や良好な景観の形成及び保全																				
	将来像	豊かな自然・歴史と調和した、安全で活力のあるまち																			
特 徴 的 な ま ち づ くり 方 針	土地利用	・ 和光北インターチェンジ周辺における工業・物流業務地区を形成 ・ 長期未着手土地区画整理事業は、市民や民間企業との協働による新たなまちづくりを推進																			
	道路・交通体系	・ 長期未着手都市計画道路は、市民や民間企業の協力を得ながら、まちづくりと一体となった整備を推進 ・ 新たなモビリティサービスである自動運転サービスの段階的導入 ・ 地域のニーズに合った快適で利便性の高い地域公共交通の充実、シェアリングサービスの段階的普及など、各移動手段の組み合わせの最適化																			
	公園・緑地・環境	・ アーバンアクア公園については、指定管理者制度を活用して維持管理 ・ 荒川沿いの農地部の保全 ・ 緑豊かなまちづくりや水循環の推進、気候変動の影響を軽減するための取り組みの推進																			
	地域防災	・ 災害リスクのある箇所の土地利用の制限や、まちづくりと一体的な防災拠点の整備を推進																			
	生活環境	・ ごみ広域処理施設の整備推進																			
	地域景観形成	・ 午王山遺跡における急傾斜地の安全対策及び景観計画の見直し																			



南地域																					
現 状	・ 和光市の南部に位置し、市役所や和光樹林公園のほか、南側の戸建て住宅地により構成 ・ 大規模な施設の敷地内緑化による良好な環境を備えていますが、住宅団地等の老朽化への対応や未利用地の有効活用が必要 ・ 南側の住宅地は農地の宅地化が進む一方で、道路基盤が不足しており、狭小道路や袋路などに沿った開発が目立つ ・ 練馬川口線沿道では高低差が大きい ・ 公益施設用地と公共用地が地域の約43%を占めている ・ 地域における将来人口は、2030 年以降減少に転じることが予測されている ・ 市民アンケート調査結果では、住み続けたい意向は市平均を下回っている																				
	人口（人） 南地域 伸び率 <table><thead><tr><th>年</th><th>南地域人口</th><th>南地域伸び率</th><th>市全域伸び率</th></tr></thead><tbody><tr><td>2020</td><td>19,562</td><td>1.000</td><td>1.000</td></tr><tr><td>2030</td><td>19,693</td><td>1.007</td><td>1.062</td></tr><tr><td>2040</td><td>19,590</td><td>1.001</td><td>1.116</td></tr><tr><td>2045</td><td>19,398</td><td>0.992</td><td>1.135</td></tr></tbody></table>		年	南地域人口	南地域伸び率	市全域伸び率	2020	19,562	1.000	1.000	2030	19,693	1.007	1.062	2040	19,590	1.001	1.116	2045	19,398	0.992
年	南地域人口	南地域伸び率	市全域伸び率																		
2020	19,562	1.000	1.000																		
2030	19,693	1.007	1.062																		
2040	19,590	1.001	1.116																		
2045	19,398	0.992	1.135																		
課 題	①市役所周辺一帯の公共施設や西大和団地の老朽化対策 ②移動の自由を確保するための公共交通機能の充実 ③和光樹林公園と調和した周辺環境の向上と和光樹林公園への良好な眺望景観の確保 ④木造住宅が密集する地区や緊急車両の進入が困難な地区における防災・減災対策 ⑤高低差のある地形的特徴を考慮した避難場所・避難所への避難方法の確保 ⑥和光市駅から和光樹林公園に至るシンボル軸における街路樹の安全性確保																				
将来像 みどりと文化を育み、居心地のよい住みやすいまち																					
特 徴 的 な ま ち づ く り 方 針	土地利用	・ 市役所周辺一帯のにぎわい創出と魅力の向上																			
	道路・交通体系	・ 安全安心で快適な生活道路環境の創出、維持管理	・ 地域のニーズに合った快適で利便性の高い地域公共交通の充実、シェアリングサービスの段階的普及など、各移動手段の組み合わせの最適化																		
	公園・緑地・環境	・ 和光樹林公園は、多面的な機能の維持に向けた適切な管理を推進	・ 整備済みの公園については、貢献度や安全性の評価を行いながら、貴重なみどり空間として維持管理																		
	地域防災	・ 建築物の不燃化・耐震化を促進、道路の拡幅やオープンスペースの確保																			
	生活環境	・ 隣接自治体との避難場所・避難所の相互利用など、災害時の柔軟な避難体制に関する環境整備の推進																			
	地域景観形成	・ シンボル軸では、沿道の街並みと一体となった、風格のある景観を形成																			

南地域まちづくり方針図



東地域																	
現 状	・和光市の東部に位置し、台地縁部の急傾斜地に形成された住宅地と国立埼玉病院、諏訪原団地により構成 ・白子川の水辺に恵まれ、湧水地が多く点在するほか、古くからの社寺や商家などにかつての街道や宿場町の面影が残る ・狭小道路が多く、家屋が密集しており、防災に配慮した良好な住宅地環境の形成が課題 ・約46％が住宅地であり、自然的土地利用は約6％と低いため、歴史的資源の保全・活用、急傾斜地の斜面の保全やみどりの創出・活用による防災に配慮した良好な居住環境の形成が必要 ・地域における将来人口は、増加が予測されているが、市全体伸び率よりは低い ・市民アンケート調査結果では、医療福祉や騒音、災害安全性、自然環境に対する満足度が低い																
	人口（人） 伸び率 東地域 <table><tr><td>2020</td><td>2030</td><td>2040</td><td>2045</td></tr><tr><td>15,331</td><td>15,625</td><td>15,988</td><td>16,102</td></tr></table> <table><tr><td>1.000</td><td>1.019</td><td>1.043</td><td>1.050</td></tr></table> <table><tr><td>1.000</td><td>1.062</td><td>1.116</td><td>1.135</td></tr></table> 年 東地域人口 東地域伸び率 市全域伸び率		2020	2030	2040	2045	15,331	15,625	15,988	16,102	1.000	1.019	1.043	1.050	1.000	1.062	1.116
2020	2030	2040	2045														
15,331	15,625	15,988	16,102														
1.000	1.019	1.043	1.050														
1.000	1.062	1.116	1.135														
課 題	①白子川や湧水地など潤いのある水辺環境や、白子宿の歴史的資源を生かした市街地環境の形成 ②移動の自由を確保するための公共交通機能の充実 ③白子川周辺の斜面緑地や湧水地など貴重な自然環境の保全 ④浸水想定区域となっている白子川沿川一帯や土砂災害警戒区域周辺における防災・減災対策 ⑤防災・防犯上危険となる空き家の適正な管理 ⑥旧川越街道や白子宿などの歴史・文化資源の保全と活用																
将来像 歴史の面影を次代につなぐ、個性輝く魅力的なまち																	
特 徴 的 な ま ち づ く り 方 針	土地利用	・白子川や湧水地などの水・みどり、白子宿の歴史的雰囲気を生かし、戸建て住宅や低中層住宅を中心とした潤いのある住宅地の形成															
	道路・交通体系	・安全安心で快適な生活道路環境の創出、維持管理 ・地域のニーズに合った快適で利便性の高い地域公共交通の充実、シェアリングサービスの段階的普及など、各移動手段の組み合わせの最適化															
	公園・緑地・環境	・市民との協働によりみどり豊かな住環境の形成 ・白子川周辺の緑地や湧水地は、安全対策を行いながら貴重なみどり空間として保全															
	地域防災	・白子川沿川一帯における浸水対策、内水被害への対策、急傾斜地の安全対策															
	生活環境	・空き家の発生予防、空き家対策の推進															
	地域景観形成	・白子宿などの歴史・文化的資源の保存・継承															

